

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三和担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 8 月 7 日（木） 9 時 30 分 ～ 11 時 00 分
2 開催場所	白脇協働センター ホール
3 参加者	15名 委員 6 名（飯田地区4名、白脇地区2名）、関係機関5名、事務局4名
4 協議の内容	<p>1.開会</p> <p>2.会長・副会長の選出</p> <p>3.会長挨拶 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>4.委員紹介</p> <p>5.協議紹介</p> <p>①「生活支援体制づくり協議体」とは 事務局より、生活支援体制づくり協議体について説明した。 ・生活支援体制づくり協議体の法的位置付け、世帯数、65・75歳以上今後の推移、飯田・白脇地区の世帯構成の変化について人口統計を用いて共有した。</p> <p>② これまでの振り返り CSWより、令和6年度の飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体について報告した。</p> <p>③【意見交換】各地区における今後の取組について 地区ごとに分かれ、グループで意見交換を行った。</p> <p>●テーマ ＜白脇＞…中学生を交えた活動について 中学生とともに考える会の開催に向けて ＜飯田＞…生活支援における社会資源のおさらい 困りごとがある人はどこにいるのか？</p> <p>【飯田地区】 ●前回の会議にて、公共サービス、民間サービス、有償サービス、住民しか知らない情報について共有をした。それらを踏まえると、買い物、健康、居場所がキーワードになってくる。住民にとって有益な情報を誰もが知っている状況ではない。どのような人たちに、どのように伝えていくが課題となり、協議を行った。</p> <p>・国道一号線の東西で、市街化調整区域と市街化調整区域ではない地域と別れている。国道一号線から東側は、市街化調整区域のため、その地域で暮らしていた人以外の家が建ちにくい環境である。そのため、昔からの付き合いのなかで、近所の見守りができていると思う。</p>

・下飯田町は、国道一号線で分断をされており、西側にも下飯田町がある。しかし、他町の自治会に属している方もいる。今後、国道一号線の高架化が進むと状況が変わるかもしれない。

公的サービスなどを利用しなくても、地域での助け合いができていく地域だと思う。他者が家に入ることに抵抗感があり、近所の力を借りてぎりぎりまで自分で頑張ろうとする方がいる。

空き家があっても新たに入ってくる方が、外国人のこともある。

公的サービスの情報を知りたいと思っても、社会と交流、社会と繋がっていない人が課題だと思う。

・シニアクラブで公民館に集まるが、暑さから公民館に来ることも大変である。シニアクラブの活動に声掛けをしても参加を望まない人が多い。食事会を企画して参加の声掛けをしている。シニアクラブからの声掛けを嫌がる人もいる。

・サロン活動をみたときに、参加者が高齢になっている。参加者の声掛けが大変である。シニアの活動で児童遊園の草刈りを年4回の頻度で行っている。ボランティアを募り、11名程度の協力者がいる。年齢層は55歳～85歳。草刈り機をする人と集める人で、役割分担をしている。ボランティアにサロン参加の声掛けをしているが、みんな忙しくて難しい。

◎今後の展開

・国道一号線よりも西側が、地域と繋がっていない方が多いと思われる。

・委員の意見だけではなく、実際に生活されている方の意見を聞く機会があっても良いのではないか。

【白脇地区】

○中学生とともに考える会に向けて

・学校側の協力も必須になるので教頭先生と打合せを行いたい。教頭先生の力を借りて内容の協議、また学校側の要望・意向を伺い、白脇地区側の要望も伝えていく。

・可美地区でも地区社協主催のボランティア養成講座を行った際に中学生とグループワークを伺ったがやりたいけれど、何をやっていいかわからないとの意見もあったことから中学生の考え、思っていることを伺う。⇒事前に聞きたい内容等を共有する。

・地域から提案も地区全体ではなく、まずは小単位で行う。

・地区社協として今後運動会のように参加者が楽しむことが出来るような企画を行いたいと考えている。規模はミニ運動会のようなもの。

・学校や地域の組織や人が変わっても地域と中学生が継続的に活動出来るように進めていけると良いのではないか。

・日程は後日調整、学校側に合わせた日程で開催を行う。学校側との調整は学校運営委員会に出席して学校側との面識がある協議体委員がいる。その協議体委員を通じて調整を行う。

○その他

・学校以外にコミュニティースクール等と連携を取ることが出来るのではないか。

・高校生にもなると学校の学びでボランティアを行うことが。高校生が地元を離れても戻って来てもらえるように卒業をした子達のボランティア活動が出来る受け皿が地域にあると良いかもしれない。

6.次回の協議内容について

日時：令和7年11月26日(水) 9時30分から11時00分まで

場所：東部地区体育館 講座室 A, B(予定)

7.連絡事項

8.閉会

飯田・白脇地区生活体制づくり協議体 副会長

**5 今後の見通し・
必要な対応**

今回の協議体では、生活支援体制づくり協議体について説明した。また、今年度協議したいことについて地区ごとにグループワークを行った。

「白脇地区」

- ・中学生をどのような所に巻き込んでいくか。
- ・中学生の取り組みと高齢者事業をどう結びつけていくか。
- ・中学生とともに考える会を開催するにあたっての準備。

「飯田地区」

- ・地域の中の助け合い活動の検討
- ・高齢者の外出の機会、地域参加の促進
- ・地域住民と共に関係機関が地域を訪問